

学校教育目標	
【目指す学校像】「えがおいっぱい ふれあいいっぱい あたかさいっぱい」な学校 【学校教育目標】 ○ 主体的対話的に学ぶ中で、気持ちや思いを表現する力を育てます。(知) ○ 周囲の人を大切に思い、関わりを深めていこうとする力を育てます。(徳) ○ 自分の心身の健康を大事に考えながら、保持増進していこうとする力を育てます(体) ○ 地域の一員として、社会の中で生活していく力を育てます。(公) ○ 学校・地域・社会の中で、自分の思いを伝えながら共に生きていこうとする力を育てます。(開)	

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	
<自己表現力> <健康で、よりよく生きようとする力> <地域の中で、共に生きていこうとする力>	具体化した資質・能力 ・人との関わりの中で、自分なりの表現ができる子ども ・自身の健康や体調を考えながら、よりよく生きていこうとする子ども ・地域の一員となり、自己実現を図っていこうとする子ども

中期取組目標
○ 一人ひとりの状況、思いや願いを基に、周囲の人との関わり合いを大切にしながら、主体的で体験を重視した学びを充実させます。 ① 校外の研修を通じて授業力や指導力の向上させ、ICT機器を効果的に活用することで、「主体的・対話的で深い学び」につなげ、自己肯定感・自己有用感を育みます。 ② 障害の状態や特性についての理解を深め、個に応じた適切な指導支援を行うことで、自分の思いを伝えようとする意欲を育みます。 ③ 小中学校、地域、関係機関、保護者と連携し、多くの人と関わる機会を増やすことで、社会や人と積極的に関わっていこうとする意欲を育みます。

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
生きて働く知	①児童生徒の思いや願いを把握し、一人ひとりの目指す資質・能力を育むための授業改善に努めます。 ②個別の指導計画の作成を行い、保護者と合意形成を図りながら段階的に個に応じた指導の充実を図ります。
担当	教育課程係・総務係

学力向上に関わる本校の状況
児童生徒の多くは、肢体不自由と重度重複障害を併せ有する子ども達です。障害の状態や特性は一人ひとり異なっています。 一人ひとりの実態把握に基づいた支援や配慮を行うとともに、学習内容を精選して主体的に学んでいける工夫が必要です。 個に応じた確かな教育活動を行い、生きる力や、地域の中で自己実現を図っていこうとする資質・能力をしっかりと育むことが大切です。 中学部と高等部には教科学習が可能な生徒が在籍しており、第1グループの教育課程を充実させるため、学習内容・学習時間・教員の指導体制等を工夫しています。

今年度の目標
・教育課程ごとに学習形態や学習内容等の蓄積と見直しを進め、一人ひとりが目指す資質・能力を育みます。

目標を実現するための具体的行動プラン	
上半期 ・3つの教育課程(準ずる・下学年、知的障害、自活主)に対応した、学習形態や学習内容等の蓄積を行います。 ・個別の指導計画に基づき作成した授業計画や教材等を学部ごと・学年ごとに集約・蓄積し、合わせて評価方法の工夫を行うことで、3つの教育課程をさらに充実させていきます。 ・学習目標が同程度の児童生徒が共に学ぶことで、学習意欲を高め児童生徒同士のつながりをつくるため、学年を越えた学びの場を設定します。 ・ICT機器を活用することで意欲的かつ主体的に学習に取り組めるようになります。また、必要に応じてオンライン学習の充実を図っていきます。 ・中学部と高等部の第1グループにおいては、生徒の体調面に配慮しつつ、実態に即した学習を行い、学力の定着を図ります。	下半期 ・3つの教育課程(準ずる・下学年、知的障害、自活主)に対応した、学習形態や学習内容等の蓄積を行います。 ・個別の指導計画に基づき作成した授業計画や教材等を学部ごと・学年ごとに集約・蓄積し、合わせて評価方法の工夫を行うことで、3つの教育課程をさらに充実させていきます。 ・学習目標が同程度の児童生徒が共に学ぶことで、学習意欲を高め児童生徒同士のつながりをつくるため、学年を越えた学びの場を設定します。 ・ICT機器を活用することで意欲的かつ主体的に学習に取り組めるようになります。また、必要に応じてオンライン学習の充実を図っていきます。 ・中学部と高等部の第1グループにおいては、生徒の体調面に配慮しつつ、実態に即した学習を行い、学力の定着を図ります。

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
豊かな心	①東俣野小学校や大正中学校、地域などとの交流を行い地域への理解を広め、地域社会での生活経験を充実させます。 ②教職員への人権研修や児童生徒への人権教育を通して教職員の人権意識を高めるとともに、人権意識を大切にすることを組織作りに取り組みます。
担当	交流係

豊かな心に関わる本校の状況
児童生徒のほとんどは移動に車いすやストレッチャーを使用し、活動中も介助が必要のため、行動範囲や活動内容が限られてしまいます。また、医療的ケアによっては、物品や機器を衛生に保つため体験できることが限られてしまいます。 コミュニケーション手段としての日常会話は難しいものの、表情・しぐさ・発声などにより自分の意思を伝えようとする児童生徒が多くいます。 豊かな心の育成～自分の思いや願いを伝え、相手の思いや願いを大切にすること～を図るためには、日々の教育活動全般での友だちや教職員との関わり、隣接する小学校・近隣の中学校との学校間交流や副学級交流、地域の人たちとの関わりなど、多くの人との関わりながら体験を積み重ねることが必要です。

今年度の目標
・学校間交流や副学級交流、地域との交流などを通し、他者との関わりを深めます。 ・他者を思いやる人権意識および道徳意識の向上に努めます。

目標を実現するための具体的行動プラン	
上半期 ・隣接する小学校との学校間交流の活動機会を拡大し、日常的な交流と行事での交流を充実させます。また、近隣の大正中学校との学校間交流を行い、同年齢の生徒同士の交流の機会を設けます。 ・授業の中で学校周辺の資源を活用することにより、自然環境や社会資源を体験する機会と地域の人たちと触れ合う機会を増やします。また、地域に限らず外部人材を積極的に招き、様々な経験や体験を伴う教育活動を充実させます。 ・教育活動の中で児童生徒に意思の表出や自己表現を促し、教員がしっかりと受止めフィードバックすることで、自分と他者の思いや願いをお互いに大切にすることを意識を高めます。	下半期 ・隣接する小学校との学校間交流の活動機会を拡大し、日常的な交流と行事での交流を充実させます。また、近隣の大正中学校との学校間交流を行い、同年齢の生徒同士の交流の機会を設けます。 ・授業の中で学校周辺の資源を活用することにより、自然環境や社会資源を体験する機会と地域の人たちと触れ合う機会を増やします。また、地域に限らず外部人材を積極的に招き、様々な経験や体験を伴う教育活動を充実させます。 ・教育活動の中で児童生徒に意思の表出や自己表現を促し、教員がしっかりと受止めフィードバックすることで、自分と他者の思いや願いをお互いに大切にすることを意識を高めます。

健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健康保持と増進	①児童生徒一人ひとりの障害の状況に応じた適切な(医療的)ケアに取り組みます。 ②児童生徒の持てる力や可能性を引出し、個々に応じた取り組みを充実させ、体力増進と健康管理を推し進めます。
担当	医療的ケア係・保健安全係

健やかな体に関わる本校の状況
児童生徒の多くは、肢体不自由と重度重複障害を併せ有し、健康の保持増進が課題となっています。特に、医療的ケアの実施に当たっては細心の注意と配慮が必要です。中には、自分で健康状態を把握し、注意しながら活動に取り組むことができる児童生徒もいます。 一人ひとりの障害の状態は異なっており、健康の保持増進のためには、個に応じた指導と支援が必要です。 また、児童生徒が主体的、意欲的に学習活動に取り組むためには、一人ひとりの健康状態に配慮した適切な学習プログラムが必要です。

今年度の目標
・個々の健康状態把握に基づく適切な(医療的)ケアを行います。 ・DrやPT・OT・ST等による研修を活用して、児童生徒の障害の状態に応じた指導支援を充実させます。 ・口腔衛生の意識向上を目指し、歯磨き指導の充実を図ります。

目標を実現するための具体的行動プラン	
上半期 ・教職員と保護者が連携しながら、児童生徒の健康保持のための健康状態の把握と適切な(医療的)ケアについて共通理解を深めます。医療的ケアについては教員と学校看護師が協働して安全に実施します。 ・PT・OT・STによる教員研修を行い、一人ひとりの障害の状態や特性に応じた自立活動の指導や支援等の充実を図ります。 ・臨床指導医による教員研修を行い、一人ひとりの障害の状態や特性に応じた食べる機能の発達を促す摂食指導の充実を図ります。 ・口腔ケアの大切さを踏まえ、年間を通して歯磨き指導を推進します。	下半期 ・教職員と保護者が連携しながら、児童生徒の健康保持のための健康状態の把握と適切な(医療的)ケアについて共通理解を深めます。医療的ケアについては教員と学校看護師が協働して安全に実施します。 ・PT・OT・STによる教員研修を行い、一人ひとりの障害の状態や特性に応じた自立活動の指導や支援等の充実を図ります。 ・臨床指導医による教員研修を行い、一人ひとりの障害の状態や特性に応じた食べる機能の発達を促す摂食指導の充実を図ります。 ・口腔ケアの大切さを踏まえ、年間を通して歯磨き指導を推進します。